



## 第2回スバルザカップヨットレース TOKYO BAY OPEN 2010

# 122艇が東京湾を彩った

7月18日、東京湾の夢の島マリーナで「スバルザカップヨットレース TOKYO BAY OPEN 2010」が真夏の晴天の下、開催された。レース参加艇数 122 艇、パーティ・表彰式の参加者約 700 名というボリュームのイベントはここ最近でもトップレベルの規模となった。

写真提供／夢の島マリーナ



山崎会長、河野副会長が乗り込んだくサンバード・フォーエバー

レース当日、夢の島マリーナはクルーたちであふれていた。

前日から船に泊まって宴会を楽しんだ船がその余韻を漂わせながらのんびりと準備するカタワラ、当日集合組は限られた時間の中、出港準備に忙しい。棧橋やマリーナ前で人々があわただしく行き来する様子は、喧噪のなかにも何やら楽しげな雰囲気だ。

9時のスタートに合わせて、早々と7時ころにはもやいを解いたレース艇たちが若洲の沖は船影であふれた。

若洲・東京デイズニールランド沖をスタートし、沖にある海ほたるを回航、そして再び若洲・東京デイズニールランド沖にもどってフィニッシュする約20マイルのコース。

南っ気の風の中、最初のスタートではマストを折るレース艇もいたほど風が吹き、沖の海ほたるあたりでは波も多少あったが、絶好のレースコンディション。

参加艇はケッチタイプの純粋クルージングボートからレーサー／クルーザーまでバリエーションが豊富。スター

ト時間にキチンと合わせて厳格にラインを計る船もいれば安全第一でゆっくりとラインを横切る船もいて、レースに対するモチベーションのタイプもさまざま。山崎達光 J S A F 会長、河野博正 J S A F 副会長といっしょに乗る〈サンバード・フォーエバー〉も相模湾から駆けつけて参加した。

共同主催者である東京ヨットクラブの斉藤晴彦副会長は、「東京湾で大きな規模のヨットレースを開催するのが夢です。できれば海の東京マラソンのような規模にしたい。ランドマークタワーサイズの船が運航する東京湾でそれは無理だろうと言われたりもしますが、ひとつひとつハードルを超えながら実現させたいと思っています。もちろん安全を第一優先に考えながら。今年、大会の回目にして122艇を集めたことで励みになりました。参加艇の数もですが、いろんなタイプのセーラーが東京湾で楽しんでほしい。ヨットとセーラーでいっぱいになる東京湾を見られる日を楽しみにしています」とレースの感想を語った。